１ラストレター（岩井俊二）

―「姉の自殺を告げるため」に顔を出した姉の高校の同窓会で、妹「」は、誰もが自分を姉だと思い込んで応対するために言いそびれてしまう。同窓会には憧れの「先輩」も来ていた。……

　裕里はホテルを出ると、駅の方向に向かいながら、先輩の姿を捜した。大きな交差点の信号につかまり、その先を目で追いかけてみたが、先輩の姿は見当たらず、そこで裕里はめる。（　Ａ　）すぐに家に帰る方向のバス停があったので、（　Ｂ　）帰ろうと列に並んだ。

―そこで、裕里は「先輩」から声をかけられた。……

　「ひさしぶり。君が帰るのが見えて。追っかけて来ちゃった。」「あら、あたしも①セ……あなたが帰るのが見えて。挨拶ぐらいしようかと思って。」「おや、それで追いかけてきてくれたんだ。」「追いかけたというか、あたしも帰るつもりだったから。」「そっか。気が合うね。」

　先輩までが自分のことを姉と間違えている。そうでなければ自分を追って来るはずがない。その笑顔、好意、弾む息、それらはすべて姉にげられるべきものなのだ。

　こうなるとなかなか②本当のことを言いづらくなってしまう。それに気がつけば、今更先輩と話す話もない。すべては過去の話だ。過去にしてはあまりに遠い過去の話だ。（　Ｃ　）二人の間には立ち話で笑いながら話せるようない出はひとつもなかった。ひとつひとつのエピソードがいちいちデリケートで痛みを伴う想い出ばかりだ。③先輩が姉に宛てたラヴレターを自分が届けなかった話にしても、自分が先輩に書いたラヴレターの話も、高校時代、旅立つ先輩を見送りに行って、［　Ⅰ　］の『草枕』の最後の奥付のページに自分の住所を書いて渡したのに、何の手紙も来なかった話も、何一つ蒸し返したくない苦い痛いいばらの想い出だらけだった。

　こうして裕里は先輩に電話番号とメールアドレスを教えてバスに乗り込んだのだった。別れ際、先輩は今は小説家だと言っていたが、そのことすらほとんど頭に入らないくらい気が動転していた。バスの座席に座り込み、（　Ｄ　）そこでひと息つけた。スマホの振動を感じる。見ると先輩からメッセージが届いていた。

　〝久しぶりに君に会えてよかった。同窓会に来たがありました。〟返事を返す。〝あたしも^o^〟するとまたメッセージが届く。〝君にまだずっと恋してるって言ったら信じますか？〟裕里は（　Ｅ　）自分に告白されているようで少し胸がときめいた。しかしそれは姉に届けられた言葉なのだ。

問１　（　）Ａ～Ｅに入ることばをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。（同じことばは二度使わない。）

ア　しかも　　　イ　まるで　　ウ　やっと

エ　ちょうど　　オ　もう

Ａ＝（　　　）　　Ｂ＝（　　　）　　Ｃ＝（　　　）

Ｄ＝（　　　）　　Ｅ＝（　　　）

問２　――線部①について、途中で飲み込んだ単語を文中から抜き出して答えよ。

〔　　　　　　　　〕

問３　――線部②について、この本文からは「先輩」は「本当のこと」を「知っている」「知らない」どちらと考えられるか。記号を○で囲め。また、その理由を四〇字以内で具体的に説明せよ。

ア　知っている　　イ　知らない

理由

〔

　　　　　　 〕

問４　――線部③と同じように、「裕里」にとって「苦い痛い」想い出となっている過去の行動を二点、簡潔に記せ。

▽＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

▽＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　［　］Ⅰに入る作家名として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　夏目　　イ　　　ウ

エ　　　オ

【解答】

問１　Ａ＝エ 　Ｂ＝オ　Ｃ＝ア 　Ｄ＝ウ　 Ｅ＝イ

問２　先輩

問３　イ

　　　理由＝（例）「君にまだずっと恋してるって言ったら信じますか？」と

メッセージを送ってきたから。（40字）

問４　▽＝先輩にラヴレターを書いた（こと）。

　　　▽＝見送りに行ったとき、先輩に自分の住所を書いた本を渡した（こと）。

問５　ア

ポイント

問２　先輩の姿が見当たらず、諦めたところで、裕里は先輩から声をかけられた。

問３　メッセージを読んだ裕里は「自分に告白されているようで」胸をときめかせるが、自分を姉と間違えたうえでのメッセージだと理解している。